

ベンズアルデヒドを使って採蜜作業を楽にする方法

I：目的

採蜜のさまざまな作業のなかでも、最も体力と身体で覚えたコツを要求されるのは、腕力だけで巣脾から大部分の蜂を振るい落とす過程であろう。中腰の作業になるので腕や肩だけでなく腰にも負担がかかる。この作業過程を蜂にも蜂蜜にも影響のない薬品を使って代行することができる。(ベンズアルデヒド=Benzaldehyde)

II：方法

1. まず巣箱の寸法に合わせた枠を作り、これにベニヤ板を裏打ちした中蓋のようなものを製作する。(絵画の額縁のようなもの)
2. 絵画が納まる部分に布を貼り付けておく。(やや厚手で吸湿性のある布地がよい) この中蓋を少なくとも2枚、対象の蜂群数も人手も多い場合は数枚準備しておく。
3. スポイトでベンズアルデヒドを布地のところどころに滴下させ(数滴～10滴)、巣箱の蓋を取り、これをすぐに裏返して「伏せた状態」で継ぎ箱群の上におく。
4. 上から強い悪臭が降りてくるため、臭いを嫌った蜂がまもなく巣門口から洪水のように這い出してくるので、充分蜂が外に出たところを見計らって、採蜜作業にかかる。
5. この群の巣脾を抜き取っている間に次の群にもう一枚、人手が多ければさらに2~3枚をおなじように置いて、作業が中断することなく流れるようにしておく。
6. ベンズアルデヒドは蜂を刺激することがなく、また短時間で揮発してしまうので、群の活動はすぐに正常に戻る。
7. 万一蜜に付着しても毒性がなく、すぐに臭いも消えてしまうので安心して使用できる。(かつては石炭酸も使われたが、毒性があり蜂を刺激するので勧められない)
8. 若い蜂はなかなか巣脾を離れない。後は蜂ブラシで仕上げをする。

III：注意

1. 可燃性で揮発しやすい。燻煙器は同時に使用しないこと。
2. 揮発したガスを吸入することや液を手にごぼすことのないように気をつける。
3. 冷暗所に保存し、採蜜現場へは最少必要限度の量を小瓶に分けて持ってゆく。瓶は直射日光の当たる場所にはおかない。